

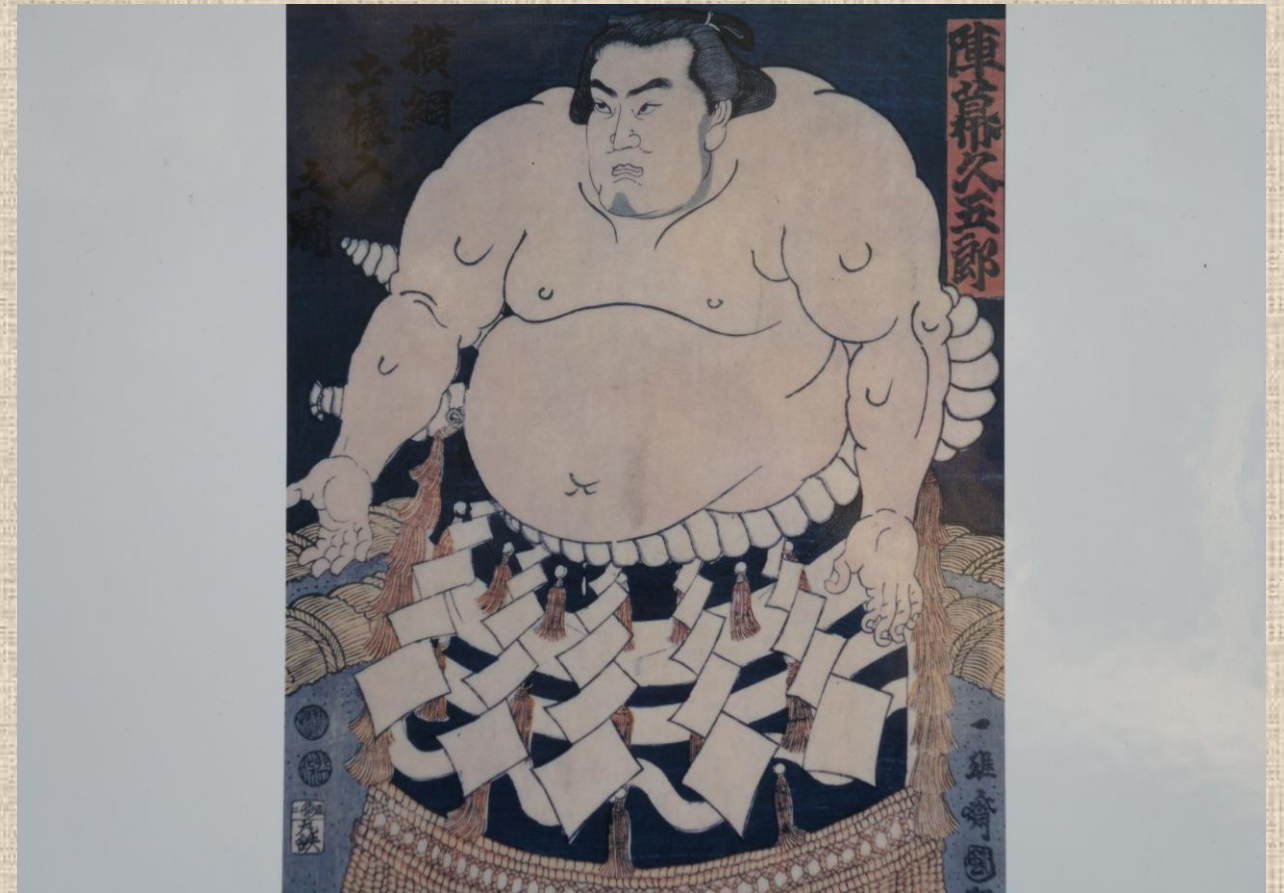
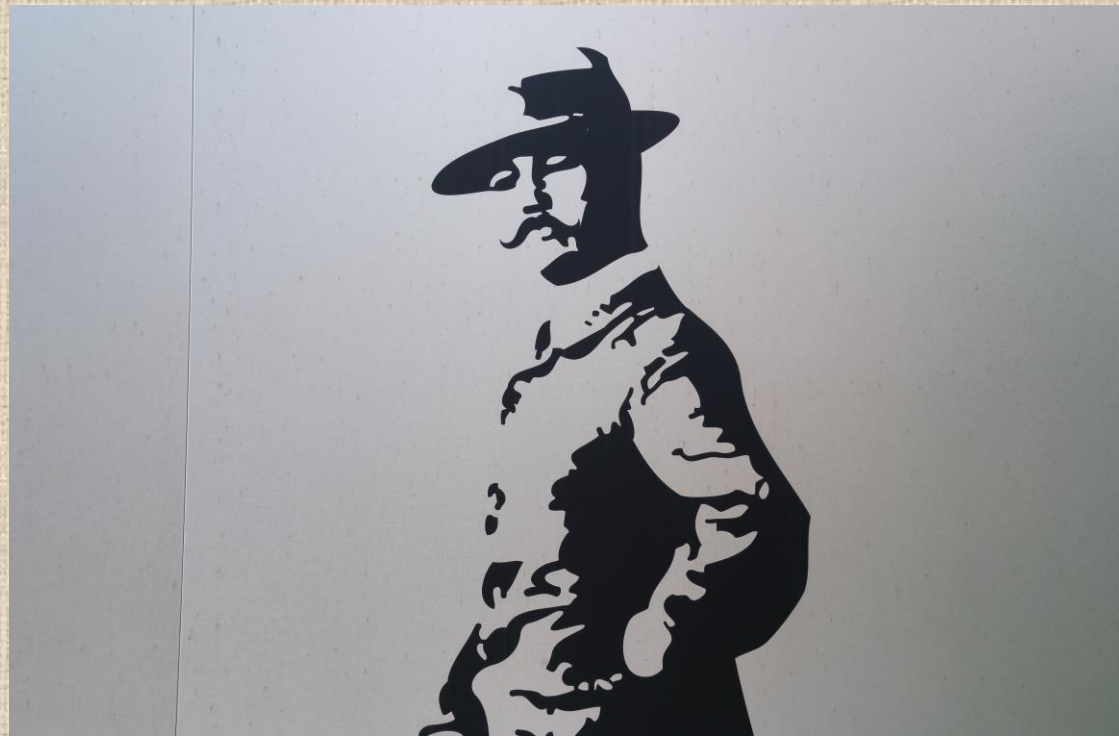
さたけ散歩

第15号

◇次号予告◇

次回のテーマは「森鷗外と観潮楼 千駄木」

東京都文京区千駄木を特集します。



大相撲癸祥の地 富岡



富岡八幡宮（東京都江東区）



“大相撲発祥の地”として知られる富岡八幡宮(とみおかはちまんぐう)は東京都江東区富岡一丁目にあります(地図①)。江戸時代には境内で本場所が開催されましたが、明治維新後の相撲界は旧幕府や大名家の後ろ盾を失うこととなります。しかし、神道との関わりを強調することで生き残りをはかったことにより、富岡八幡宮との結びつきが強くなったのです。現在では新横綱誕生の際に奉納土俵入りが執り行われる他、境内には相撲に因んだ数々の石



江戸時代の測量家・伊能忠敬(いのうただたか)は、深川に居住しており、測量に出掛ける際は安全祈願として必ず富岡八幡宮に必ず参拝していたと伝えられています。平成13年には伊能測量200年を記念して大鳥居の横に



伊能忠敬像



境内の裏手には歴代横綱力士と“伝説の大関”と呼ばれた雷電為右工門(らいでんためえもん)を顕彰した「横綱力士碑(写真上)」があります。その傍らには「超五十連勝力士碑(ちょうごじゅうれんしゅうりきしひ:写真右)」があり、50連勝以上を達



超五十連勝力士碑



「横綱力士碑」は縦3m50cm、厚さ1m、重さ20トンの巨大な白御影石で、明治33年に完成しました。裏面に初代横綱・明石志賀之助(あかししがのすけ)以降の横綱力士と雷電為右工門の名が刻まれています。江戸時代における横綱の人数や昇進順については異説も存在しますが、日本相撲協会が採用している横綱一覧は「横綱力士



「強豪関協力士碑」には後に“日本プロレスの父”となる力道山(りきどうざん)の名が刻まれています。



■アクセス
東京メトロ東西線門前仲町駅下車徒歩3分



12代横綱 陣幕久五郎(じんまくきゅうごろう)



「巨人力士身長碑」に刻まれている巨人力士第1位は、江戸時代後期の力士・生月鯨大左衛門(いけづきげいたざえもん)で7尺6寸(2m30cm)。第2位は大空武左衛門(おおぞらたけざえもん)で7尺5寸(2m27cm)となっています。



巨人力士・大空との比較

富岡を歩いて

平成26年10月7日、「横綱力士碑」に第71代横綱・鶴竜カ三郎(かぶりゅうりきさぶろう)の刻名式が斎行され、横綱の新たな歴史が刻まれました(今頁左上写真)。さて、富岡八幡宮の祭礼である深川八幡祭(深川祭)は、毎年8月15日を中心に行われており、一の宮神輿は日本最大の神輿と言われ、平成3年に初渡御(はつわご)が行われて以降は神輿倉の展示品として扱われています。